

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年9月3日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3873700367
事業所名	グループホーム 瀬戸あいじゅ
(ユニット名)	汐風
記入者(管理者)	
氏名	那須 百合
自己評価作成日	H30 年 8 月 16 日

<p>【事業所理念】私たちは、ご利用者様に満足していただけることを第一に高品質なサービスを提供し地域社会にもっとも信頼され、安心させる施設づくりを目指します</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 つながりは増えていない。</p>	<p>地域の一員として近隣工場とのつながりを増やす。→散歩へ出向くことはあったが</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 小学校の跡地に建設された事業所は、二宮金次郎の石像や校歌の石碑をそのまま残しており、利用者が往時を懐かしむことができる。高齢者総合福祉施設の一事業所であり、ケアハウスの利用者と新しい関係づくりができています。夏祭りには保育園児の訪問があるなど交流を大切にしている。町内の利用者が多く、堅苦しい雰囲気はなく、見慣れた海を眺めながら日常生活の中で役割をもち暮している。職員は人生の先輩として利用者を敬い、楽しく過ごしてほしいと願い支援に努めている。</p>
--	--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入所前の様子をご本人やご家族から聞き、希望意向の把握に努めている	◎	/	○	日常の関わりの中で利用者の思いや意向を聞くよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日常の様子や表情、行動面で本人の視点に立ち検討できるように努めている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に本人との関わりや、以前の様子など話し合っている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	入所前の面談や日々の様子を記録している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員同士で気づきを話し合いながら、本人の思いにそえるように気をつけている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前の面談で家族や本人から生活歴や暮らし方馴染みの関係などを伺い把握している	/	/	○	入居前の病院や施設から情報を得ることが多い。今までの生活歴やこだわりなど、家族や利用者の知人から聞いて把握に努めており、継続できることは日常生活に取り入れながら支援している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	できないと決め付けず職員と一緒にいき、状態の把握に努めている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の記録に残し職員間で情報の共有を図っている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の気になる言動は記録に残し、原因を追究・要因の除去をしている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日々の記録をもとに把握している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々の会話や記録を元にアセスメントしている	/	/	○	普段の生活の中での会話や記録を元に、利用者が何を求めているのか把握に努め、利用者の視点で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人にとって日々の暮らしが充実したものになるように担当者会議で話し合っている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人、家族の意向を聞きながら課題を明らかにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	本人、家族の意向にそってプランを作成している。意向を伝えられない方は、職員本位になっていることもある	/	/	/	利用者の状態を考慮し、利用者や家族の思いや意見を反映した介護計画となるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の状態や本人、家族、職員の意見を反映しプランを作成している	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	そのひとらしい過ごし方ができるように努めている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	家族様の病院受診は盛り込まれているが地域協力は盛り込まれていない	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	いつでもみれるようにファイルに綴じ共有している	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握し理解している。介護計画に基づきケアに努めており、サービス内容については経過記録に記載されている。経過記録を確認しながら職員間で共有を図っている。毎日の利用者のしぐさや行動等は具体的に記入され、職員の気づきなどもカンファレンスで共有し記録するようにしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の記録に残し毎月モニタリングを行っている	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	毎日の様子を記録に残している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	毎日の様子を記録に残している	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	個別に見直しを行っている	/	/	○	介護計画の見直しは3か月毎に行っている。状態に変化がなくても毎月現状確認を行っており、変化がみられた場合はモニタリングを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングを行いアセスメントの見直しをおこなっている	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	必要に応じて行っている	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	その都度話し合いを行っている	/	/	○	月1回の職員会議や担当者会議で話し合いを行っており、会議では職員の気づきや意見が述べられている。参加できない職員には会議録を回覧し共有を図っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	意見がしやすい雰囲気づくりができています	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	全員の参加は難しい。参加できない方には会議録を回覧している	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	連絡ノートや会議録を活用し共有している	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	連絡ノートや会議録を活用し共有している	/	/	○	業務日誌や申し送りノートを活用したり、口頭で伝達するなど職員間で共有を図っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	業務日誌や連絡ノートを活用している	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	できることについては、行うようになっている	/	/	/	服装選びや洗濯物をたたんだり、日常生活の中で利用者が自己決定できる場面をつくっている。野菜づくりの好きな利用者は積極的に水やりをしたり、海を眺めに外に出たりするなど、生き生きとした表情で過ごせるよう支援に努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	可能な方には自己決定できるような声かけや工夫を行っている	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	一人ひとりに合わせた声かけを行いながら支援している	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	×	業務が優先になっていることが多い。入浴の長さは本人の好みの時間になっている	/	/	/	
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	興味のあることを引き出しながら声かけをおこなっている	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	本人の表情を見ながら判断している	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	介助時には声をかけ同意を得てから介助に入っている	◎	○	○	介助を行う際は必ず声をかけ同意を得てから行うなど、尊厳を大切にケアを心がけている。トイレ誘導時などは、さり気なく声かけをするように配慮している。居室に入る際は必ずノックと同意を得てから入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	気をつけて声かけしている	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	プライバシーに配慮しながら行っている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入る際はノックをし同意を得てから入るようにしている	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入職時に個人情報に関する誓約書をとっている。また、勉強会を行っている	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	職員は、知らないことを教えて頂いたり、常に感謝する言葉を出し伝えている	/	/	/	世話好きな利用者を中心に、利用者同士いい関係が築けており、不穏になりそうな時は、職員が仲介するようになっている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士で作業する時間を大切にしている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	仲のよい方や同郷のかたを近くにしたり、トラブルが起きたときやおきそうな時は職員が間に入り対応している	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	一度トラブルのあった方は席を離している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所前の面談や面会者、本人との会話の中で確認している	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所前の面談や面会者、本人との会話の中で確認している	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	会いに行くことはできていない。施設内他の事業所の方には会うことはできている	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会はホールや居室など本人、家族が落ち着ける場所で行っている	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	外出はあまり行っていないが、中庭を活用し外にでる機会を作っている	○	×	○	遠くへの外出は少ないが、中庭に出て外気浴を楽しんだり、海岸が見える場所まで散歩したりと、利用者が少しでも戸外に出れるよう支援している。重度の利用者も定期的に一緒に中庭に出て、外のきれいな空気を吸うようにしており、常に気分転換が図れるよう支援に努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	運営推進会議の際、協力して頂き外出出来た	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	散歩や中庭へでて気分転換を図っている	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	現在行っていないが、今後は協力を得ながら行っていきたい	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	内部、外部の勉強会に参加し理解を深めている	/	/	/	野菜を切ったり洗濯物をたたむなど、利用者ができることを職員は見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日々の生活の中で、今できることを維持できるようにしている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できることを取り上げないようにするべく見守りに対応している	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	役割が持てるように、日々何らかの手伝いをしてもらっている	/	/	/	草引きをしたり台所の手伝いや洗濯物を担当するなど、それぞれできることの役割を担い、楽しみながら取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	女性だけでなく、仕事の取り合いになることがあるため分散して行ってもらっている	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	現在行っていない。今後検討していきたい	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	毎日、化粧やピアスをされる方もいる。更衣時は、服を選べれる方は選んでもらっている	/	/	/	自分で化粧を楽しんでいる利用者もあり、整容の乱れや汚れがあった場合には、プライドを傷つけないようさりげなく交換するなど配慮している。重度の利用者も定期的に訪問理容を利用し、好きな髪型にするなどその人らしさが保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	△	家族の協力を得て毎日化粧をする方や化粧水をつける方もいる	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	声かけの工夫をしながら自己決定してもらっている	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節にあった服選びや、衣替えを職員と一緒にやっている	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	汚れた部分などプライドを大切に、交換やカバーしている	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族の協力で希望の店へ行けるようにしている	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	定期的に訪問理容で支援を行っている	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	理解したうえで一緒に行っている	/	/	/	調理の下準備や片付けなど、利用者ができることは可能な限り一緒に行っている。郷土料理や行事メニューなど季節感が楽しめるよう配慮している。利用者の状態に応じ、職員で話し合いながら食事形態を見直している。茶碗や箸は利用者の好みのものや使いやすいものを使用している。職員は同じテーブルを囲み重度な利用者にはメニューの説明をしたり、見やすい場所に置くなどサポートしている。献立は法人の栄養士が作成しており、利用者は栄養バランスのいい食事が摂れている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	献立、買い物は施設内の厨房で行っている。調理の下準備や片付けは可能な限り一緒に行っている	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	できることを一緒に行うことにより自信や達成感、食欲アップにつなげられるように支援している	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	苦手なもの、アレルギーのあるものは代替にて対応している	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立は、施設内の栄養士が作成。郷土料理や行事に合わせたメニューを作成している	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	個々の状態を把握し、一口大のおにぎりやキザミ食にして対応している	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入所時にご自分のものを持ってきていただき使用している	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	昼食は職員も一緒に食べ、さりげなくサポートできるように努めている	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	メニューを伝えたり、見えやすい場所に掲示している	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	カロリー計算はできていないが、水分の少ない方には声かけや、好みの水分で対応している	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分量の少ない方には、いつでも飲んでいただけるように声かけしている	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立は栄養士が作成。調理方法などわからない時は都度確認している	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材はすぐに冷蔵庫へ保管。調理器具は、都度殺菌消毒している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解し対応している	/	/	/	週1回の訪問歯科で利用者の口腔状況に応じた対応に努めている。毎食後口腔ケアを行っているが、確認の難しい利用者には十分行えていないため、今後は訪問歯科医と連携を図りながら利用者の口腔内の状況の把握に努め、清潔保持に万全を期して欲しい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	本人からの訴えや口腔ケア時に確認し必要に応じて歯科医へ相談している	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	今後勉強会を行う予定にしている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	本人が洗った後、ポリドントで洗浄している	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	確認を嫌がられる方もいるため、全員は行えていない	/	/	△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	訪問歯科に診ていただいている	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレでの排泄を促し、訴えない方もトイレ誘導を行っている	/	/	/	パッドやリハビリパンツ、ポータブルトイレなどの使用について検討し、利用者の状態に応じ、トイレでの排泄を基本にした支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解し、食事・運動・水分には気をつけている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	△	排泄チェック表に記入しているが、パターンが把握できにくい	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	体調の悪い時以外は、トイレでの排泄を心がけている	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	訴えない方も時間をみてトイレ誘導している	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェックを活用しながら誘導している	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	本人の尿量や間隔などを話し合いながら決めていくが選択肢があまりない	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人ひとりの状態に合わせて昼夜の使い分けなど適宜に行っている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	×	あまり行えていない	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	曜日や時間は希望に添えていない。温度や入浴時間は希望に添えるよう努めている	◎	/	△	湯温や浸かる時間は利用者の要望に沿っているが、入浴日時は事業所の都合になっているので、利用者一人ひとりの要望に沿った支援に努めて欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	個室のためゆっくり入浴していただいている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	できるところは自分で行っていただき、できないところは支援している	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いをせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理には行わず、本人の意思を尊重し入浴を行っている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には、血圧・検温測定を行い健康状態の確認を行い、入浴している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤者が、個々の睡眠状態を記録している	/	/	/	体調に無理のない範囲で、日中の活動を増やし生活リズムを整えるなど工夫することで、薬剤に頼らないよう支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を増やしたり、落ち着ける環境づくりに心かけている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中・夜間の様子を記録し、主治医に伝え相談している	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	居室で休まれる方は、休んでいただけるようにしている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望される方ははがきを書いている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話を希望される方は電話をしている	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	配慮している	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に渡し、居室に貼ったり本人が大切に保管してる	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	本人が話をしたい時には電話をかけることについて理解を得ている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解しているが、入所時に預からないことを説明している	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	必要時には家族へ連絡し職員が代わりに買いにいっている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	近所に店もなく買い物いく機会がない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	小額の現金を待っている方もいるが使う機会がほとんどない	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	欲しい物、必要なものがあれば家族へ相談している	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	金銭管理は家族が行っている。何か購入するものがある場合は家族の同意を得て購入している	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	希望や状態に沿ったサービスを提供できるように努めている	◎	/	◎	親戚の葬儀など急な外出にも対応できるよう支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関周りには、花壇があり季節の花が咲いている	◎	◎	◎	玄関まわりの花壇には季節の花が咲き誇っており、職員がごみ拾いをするなどきれいに整備されている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節感が出るような飾りを飾っている。また、行事に参加した時の写真を貼っている	○	○	○	壁面には季節に応じた飾り付けや行事に参加した楽しい表情の利用者の写真が飾られている。中庭は併設のケアハウスと囲むようにつくられ、落ち着いた雰囲気がある。掃除が行き届き、オゾン空気清浄機を置くなどして環境整備に努めている。窓からは広々と海を見渡すことができ、季節毎の海上の景色を味わうことができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日、掃除や換気を行っている	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に合わせた行事に参加してもらい、居心地よく過ごしていただけるよう工夫している	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	ご自分の好きな場所で過ごしていただいている	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	直接見えないようにつくりになっている。2階から見えないように目張りしている	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	全員ではないが使い慣れたものを持ってきている	○	/	/	テレビや時計、化粧道具、手編みのカバーをつけた座布団など使い慣れた物や好みの物が持ち込まれている。仏壇の持ち込みもあり、利用者が落ち着いて過ごすことができるよう部屋づくりがされている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	今、できることを活かしながら自立した生活が送れるようにしている	/	/	/	転倒の恐れのある利用者のベッド横にはソファを置き、もたれかけることができるよう工夫されている。リビングの椅子には手作りの杖置きが設置されたり、利用者が安全に移動できるよう手すりが設けられ、自立した生活が送れるよう配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安や混乱などを招く物品は除いている	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	使用したい時には渡せるようにしている	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	所在確認を行い、自由に歩けるようにしている	◎	◎	◎	職員は鍵をかけることの弊害を理解し、玄関先に移動する利用者には常に付き添うなど安全面に配慮している。玄関は施錠しておらず、自由に出入りすることができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	その都度話し合っている	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	施設内の他の部署にも協力していただいているが、近隣への理解・周知は行っていない	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントや面談記録、薬剤情報などで把握している	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日のバイタル測定を記録し、異常の早期発見に努めている	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	日中夜間を問わずいつでも協力医療機関に連絡が取れる体制を作っている	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	数名、入所前からのかかりつけ医にかかっている	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	常に連携を図っている	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	その都度話し合いを行っている	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	サマリーを作成し渡している	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時は定期的に面会に行き情報交換を図っている	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	往診時や定期的に相談し関係づくりを築いている	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	協力医療機関に伝え相談している	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医療機関に24時間連絡が取れる体制を作っている	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	いつもと様子が違う時は、小さなことでも相談し受診している	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬剤情報をファイリングし理解に努めている	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	職員が管理し、医師の指示通り服薬できるよう支援している	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日々の状態を確認し記録している	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	状態の経過や変化を細かく記録し家族や医師に伝えている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	重度化した場合、施設のできること・できないことを伝え相談している	/	/	/	法人の方針で、重度になった場合には併設の特別養護老人ホームに移ってもらうことを入居時に説明し、利用者や家族から同意を得ている。緊急時の対応など年間の勉強会に取り入れ、職員は意識向上につなげている。今後は重度化や終末期のあり方について、家族や職員、医師等も含め話し合い、方針を共有することにも努めて欲しい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化になった場合は、家族と相談してその時に必要な情報を伝えている	×		△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	その都度話し合っている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時に説明しているが、その時になってときも説明している	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療機関、家族とその都度相談している	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	その都度話し合っている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	施設内外で研修を行い定期的に学んでいる	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルに沿って対応。実技の研修を受けている。また感染症対応のキットを置き手順を記入している	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	その都度最新情報を取っている	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	随時情報収集している	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は出勤時に手洗い・嗽を行っている。来訪者にも、手指消毒をしてもらっている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	入所者の状態報告だけでなく、日常会話も含めて伝えている	/	/	/	行事案内の送付や声かけ等を行い、家族は事業所の行事に積極的に参加している。2か月毎に利用者の様子がわかるよう手紙を書き、写真を添えて送付している。遠方の家族など、必要に応じ電話連絡も行っている。原発事故の避難場所として、施設内にシェルターが設置されたことを家族会で報告するなど、事業所の運営上の報告をするよう努めているが、把握できていない家族もいるため、家族全員が理解できるよう分かりやすく説明して欲しい。家族の面会時には職員から声かけを行い、利用者の近況報告をしたり希望や意向を聞くようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	お茶を出したり、行事の様子などお話ししている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事等に連絡し、参加していただけるように案内文書を送っている	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	2ヶ月毎に近況報告を送っている	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	本人の状況などを報告している	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時、常に声かけを行っている	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事案内を送付している	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族会を行っているが参加者は少ない	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時に説明を行っている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には声かけを行い近況を報告している	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に重要事項説明書と契約書の内容を説明している	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	状態が変化したときには、家族、主治医と相談し退去先に移れるように支援している	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改定時などの変更時は文章を送付し同意を得ている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	運営推進会議や行事で施設への理解を図っている	/	◎	/	住宅地に立地していないため、地域住民と関わりをもつことが難しいが、今後は町内会への入会等も考える方針である。隣接する食品工場に挨拶したことはあるが、その後付き合いが継続していないため、再度積極的な交流を図るなど、地域との連携強化に努めることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	外の散歩時など挨拶を行っている	/	△	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	ほとんどない	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄りたり遊びに来たりしている。	△	行事には来てくださっている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	隣近所がなく日常的な付き合いはない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	夏祭りや敬老会など参加し支援して頂いている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	夏祭りではGHの入所者が出し物をしている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	近隣の高齢者福祉施設と災害時相互応援協定を締結しているほか、消火・避難訓練等を通じて地域の駐在所・消防署との関係を深めている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	家族や民生委員、町の職員に参加して頂いている	×	/	△	家族や民生委員、町職員が参加しているが、利用者の参加があまり見られないので、利用者が参加しやすいような工夫に期待したい。外部評価結果の取り組み状況等については、運営推進会議で報告しているが理解していない参加者もいるため、全員の理解が得られるよう説明することが望まれる。運営推進会議で出された意見等は、職員会議等で話し合い、サービス向上に活かせるよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告している	/	/	△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で意見は、職員で話し合っている	/	△	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマにあわせて、日程・時間調整を行っている	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	施設玄関に置き、自由に閲覧できるようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	法人の理念に沿って支援している	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	施設内に掲示している	x	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内外の研修に参加するようにしている	/	/	/	代表者は、相談しやすく希望休など直接言える関係で、年1回ストレスチェックを行ったり、働きやすい職場環境づくりにも努めており、積極的に職員のストレス軽減に努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	施設全体での勉強会計画があり、スキルアップできるように努めている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々の努力や実績等を把握している	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	町内事業所の運営推進会議に参加し、情報交換やネットワークづくりに努めている	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ストレスチェックを実施。職員同士相談しやすい環境づくりに努めている	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	不適切ケアチェックを3ヶ月毎に実施。自身のケアを見つめ直している	/	/	/	3か月毎に不適切ケアチェック表で職員自身のケアを振り返り、勉強会や研修など具体的に学ぶ機会を設けている。不適切なケア等を発見した場合の対応方法や手順等については、マニュアルに基づき対応するよう職員間で共有されている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	その都度相談し対応するようにしている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	見過ごすことのないように努めている。また、発見した場合の対応方法などマニュアルに記載している	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の疲労やストレスによりケアに影響がでていないか注意を払っている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	常に職員間で話し合い、行動を制限しないケアを実施できるよう工夫している	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会を行っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	現在そのような事例がない	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	×	制度は知っているが、違いや利点などの理解はできていない	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	現在行えていない。今後検討していく	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	連絡体制はあるが現在必要な方はいない	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成し周知している	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	実践的な研修は行っていない	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生時は、分析や再発防止策を検討している	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生後、対応策を実施し見直しを行っている	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	施設内のマニュアルを作成している	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があった場合は手順に沿って対応している	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	寄せられた苦情には速やかに対応し納得が得られるようにしている	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	個別に意見や要望をきいているが、言われない方もいる	/	/	○	利用者からは普段の生活の中で意見や要望を聞くよう努め、意思表示が困難な利用者は表情や言動から汲み取るよう努めている。家族には面会時や利用者の様子を報告する際に意見等を聞き取るようにしている。管理者は職員と個別に面談する機会をつくり、意見や要望を聞き把握すると共に、利用者本位の支援ができるよう事業所の運営に活かしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	意見箱の設置。面会時に聞くようにしている	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	苦情受付先を施設内に掲示している	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	個別に話を聞いている	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	個別に悩みや相談を受けるようにしている	/	/	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に一度自己評価を行っている				運営推進会議でサービス評価の取組みについて報告しているが十分とは言えないのが現状である。今後は家族にアンケートを実施するなど工夫しながらモニターしてもらうよう努めて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員同士話し合いをしている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標が達成できるよう取り組んでいる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議にて評価結果や今後の取り組みについて報告している	△	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	行えていないため今後は行っていきたい				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成している				火災や地震想定など消防署立ち合いのもと行っているが、地域住民との合同訓練は行えていない。また施設内にシェルターが設置されたため、逆に地域との支援体制が希薄になりつつある。今後は隣接する地域の民間企業と協力できるような関係づくりにも努めるなど、日頃から災害時の協力体制を構築していくことが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	訓練計画に沿って訓練を行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	非常食は定期的に点検している				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地区の合同訓練に参加しているが、避難場所が施設内になった。	△	△	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	消防署立会いの元、訓練し、指導や助言をして頂いている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	行えていないため今後は行っていきたい				地域の民間企業と関わりをもちながら事業所のPRを行い、地域の相談ニーズの把握に積極的に取り組んで欲しい。町の関係機関とは連携が密に取れているが、行事等具体的な取組みができていないため、地域と合同のイベントを実施するなど、地域の拠点となる事業所を目指して欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	行えていないため今後は行っていきたい		×	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	行えていないため今後は行っていきたい				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	行えていないため今後は行っていきたい				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	連携は密に図れている			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年9月3日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3873700367
事業所名	グループホーム 瀬戸あいじゅ
(ユニット名)	浜風
記入者(管理者)	
氏名	那須 百合
自己評価作成日	H30 年 8 月 16 日

<p>【事業所理念】私たちは、ご利用者様に満足していただけることを第一に高品質なサービスを提供し地域社会にもっとも信頼され、安心させる施設づくりを旨とします</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 つながりは増えていない。</p>	<p>地域の一員として近隣工場とのつながりを増やす。→散歩へ出向くことはあったが</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 小学校の跡地に建設された事業所は、二宮金次郎の石像や校歌の石碑をそのまま残しており、利用者が往時を懐かしむことができる。高齢者総合福祉施設の一事業所であり、ケアハウスの利用者と新しい関係づくりができています。夏祭りには保育園児の訪問があるなど交流を大切にしている。町内の利用者が多く、堅苦しい雰囲気はなく、見慣れた海を眺めながら日常生活の中で役割をもち暮している。職員は人生の先輩として利用者を敬い、楽しく過ごしてほしいと願い支援に努めている。</p>
--	--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入所前の様子をご本人やご家族から聞き、希望意向の把握に努めている	◎	/	○	日常の関わりの中で利用者の思いや意向を聞くよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日常的な様子や表情、行動面で本人の視点に立ち検討できるように努めている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に本人との関わりや、以前の様子など話し合っている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	入所前の面談や日々の様子を記録している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員同士で気づきを話し合いながら、本人の思いにそえるように気をつけている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前の面談で家族や本人から生活歴や暮らし方馴染みの関係などを伺い把握している	/	/	○	入居前の病院や施設から情報を得ることが多い。今までの生活歴やこだわりなど、家族や利用者の知人から聞いて把握に努めており、継続できることは日常生活に取り入れながら支援している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	できないと決め付けず職員と一緒にいき、状態の把握に努めている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の記録に残し職員間で情報の共有を図っている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の気になる言動は記録に残し、原因を追究・要因の除去をしている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日々の記録をもとに把握している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々の会話や記録を元にアセスメントしている	/	/	○	普段の生活の中での会話や記録を元に、利用者が何を求めているのか把握に努め、利用者の視点で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人にとって日々の暮らしが充実したものになるように担当者会議で話し合っている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人、家族の意向を聞きながら課題を明らかにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	本人、家族の意向にそってプランを作成している。意向を伝えられない方は、職員本位になっていることもある	/	/	/	利用者の状態を考慮し、利用者や家族の思いや意見を反映した介護計画となるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の状態や職員の意見を反映しプランを作成している	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	そのひとらしい過ごし方ができるように努めている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	家族様の病院受診は盛り込まれているが地域協力は盛り込まれていない	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	いつでもみれるようにファイルに綴じ共有している	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握し理解している。介護計画に基づきケアに努めており、サービス内容については経過記録に記載されている。経過記録を確認しながら職員間で共有を図っている。毎日の利用者のしぐさや行動等は具体的に記入され、職員の気づきなどもカンファレンスで共有し記録するようにしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の記録に残し毎月モニタリングを行っている	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	毎日の様子を記録に残している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	毎日の様子を記録に残している	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	個別に見直しを行っている	/	/	○	介護計画の見直しは3か月毎に行っている。状態に変化がなくても毎月現状確認を行っており、変化がみられた場合はモニタリングを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングを行いアセスメントの見直しをおこなっている	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	必要に応じて行っている	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	その都度話し合いを行っている	/	/	○	月1回の職員会議や担当者会議で話し合いを行っており、会議では職員の気づきや意見が述べられている。参加できない職員には会議録を回覧し共有を図っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	意見がしやすい雰囲気づくりができています	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	全員の参加は難しい。参加できない方には会議録を見ていただいている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	連絡ノートや会議録を活用し共有している	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	連絡ノートや会議録を活用し共有している	/	/	○	業務日誌や申し送りノートを活用したり、口頭で伝達するなど職員間で共有を図っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	業務日誌や連絡ノートを活用している	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	できることについては、行うようになっている	/	/	/	服装選びや洗濯物をたたんだり、日常生活の中で利用者が自己決定できる場面をつくっている。野菜づくりの好きな利用者は積極的に水やりをしたり、海を眺めに外に出たりするなど、生き生きとした表情で過ごせるよう支援に努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	可能な方には自己決定できるような声かけや工夫を行っている	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	一人ひとりに合わせた声かけを行いながら支援している	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	×	業務が優先になっていることが多い。入浴の長さは本人の好みの時間になっている	/	/	/	
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	興味のあることを引き出しながら声かけをおこなっている	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	本人の表情を見ながら判断している	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	介助時には声をかけ同意を得てから介助に入っている	◎	○	○	介助を行う際は必ず声をかけ同意を得てから行うなど、尊厳を大切にケアを心がけている。トイレ誘導時などは、さり気なく声かけをするように配慮している。居室に入る際は必ずノックと同意を得てから入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	気をつけて声かけしている	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	プライバシーに配慮しながら行っている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入る際はノックをし同意を得てから入るようにしている	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入職時に個人情報に関する誓約書をとっている。また、勉強会を行っている	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	職員は、知らないことを教えて頂いたり、常に感謝する言葉を出し伝えている	/	/	/	世話好きな利用者を中心に、利用者同士いい関係が築けており、不穏になりそうな時は、職員が仲介するようになっている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士で作業する時間を大切にしている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	仲のよい方や同郷のかたを近くにしたり、トラブルが起きたときやおきそうな時は職員が間に入り対応している	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	一度トラブルのあった方は席を離している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所前の面談や面会者、本人との会話の中で確認している	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所前の面談や面会者、本人との会話の中で確認している	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	会いに行くことはできていない。施設内他の事業所の方には会うことはできている	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会はホールや居室など本人、家族が落ち着ける場所で行っている	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	外出はあまり行っていないが、中庭を活用し外にでる機会を作っている	○	×	○	遠くへの外出は少ないが、中庭に出て外気浴を楽しんだり、海岸が見える場所まで散歩したりと、利用者が少しでも戸外に出れるよう支援している。重度の利用者も定期的に一緒に中庭に出て、外のきれいな空気を吸うようにしており、常に気分転換が図れるよう支援に努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	運営推進会議の際、協力して頂き外出出来た	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	散歩や中庭へでて気分転換を図っている	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	現在行っていないが、今後は協力を得ながら行っていきたい	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	内部、外部の勉強会に参加し理解を深めている	/	/	/	野菜を切ったり洗濯物をたたむなど、利用者ができることを職員は見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日々の生活の中で、今できることを維持できるようにしている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できることを取り上げないようになるべく見守りに対応している	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	役割が持てるように、日々何らかの手伝いをしてもらっている	/	/	/	草引きをしたり台所の手伝いや洗濯物を担当するなど、それぞれできることの役割を担い、楽しみながら取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	声かけをし、役割をつくれるようにしている	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	現在行っていない。今後検討していきたい	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	更衣時は、服を選べれる方は選んでもらっている	/	/	/	自分で化粧を楽しんでいる利用者もあり、整容の乱れや汚れがあった場合には、プライドを傷つけないようさりげなく交換するなど配慮している。重度の利用者も定期的に訪問理容を利用し、好きな髪型にするなどその人らしさが保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	△	本人の好みの服装にして頂いている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	声かけの工夫をしながら自己決定してもらっている	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節にあった服選びや、衣替えを職員と一緒にやっている	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	汚れた部分などプライドを大切に、交換やカバーしている	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族の協力で希望の店へ行けるようにしている	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	定期的に訪問理容で支援を行っている	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	理解したうえで一緒に行っている	/	/	/	調理の下準備や片付けなど、利用者ができることは可能な限り一緒に行っている。郷土料理や行事メニューなど季節感が楽しめるよう配慮している。利用者の状態に応じ、職員で話し合いながら食事形態を見直している。茶碗や箸は利用者の好みのものや使いやすいものを使用している。職員は同じテーブルを囲み重度な利用者にはメニューの説明をしたり、見やすい場所に置くなどサポートしている。献立は法人の栄養士が作成しており、利用者は栄養バランスのいい食事が摂れている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	献立、買い物は施設内の厨房で行っている。調理の下準備や片付けは可能な限り一緒に行っている	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	できることを一緒に行うことにより自信や達成感、食欲アップにつなげられるように支援している	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	苦手なもの、アレルギーのあるものは代替にて対応している	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立は、施設内の栄養士が作成。郷土料理や行事に合わせたメニューを作成している	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	個々の状態を把握し、一口大のおにぎりやキザミ食にして対応している	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入所時にご自分のものを持ってきていただき使用している	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	昼食は職員も一緒に食べ、さりげなくサポートできるように努めている	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	メニューを伝えたり、見えやすい場所に掲示している	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	カロリー計算はできていないが、水分の少ない方には声かけや、好みの水分で対応している	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分量の少ない方には、いつでも飲んでいただけるように声かけしている	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立は栄養士が作成。調理方法などわからない時は都度確認している	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材はすぐに冷蔵庫へ保管。調理器具は、都度殺菌消毒している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解し対応している	/	/	/	週1回の訪問歯科で利用者の口腔状況に応じた対応に努めている。毎食後口腔ケアを行っているが、確認の難しい利用者には十分行えていないため、今後は訪問歯科医と連携を図りながら利用者の口腔内の状況の把握に努め、清潔保持に万全を期して欲しい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	本人からの訴えや口腔ケア時に確認し必要に応じて歯科医へ相談している	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	今後勉強会を行う予定にしている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	本人が洗った後、ポリドントで洗浄している	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	確認を嫌がられる方もいるため、全員は行えていない	/	/	△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	訪問歯科に診ていただいている	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレでの排泄を促し、訴えない方もトイレ誘導を行っている	/	/	/	パッドやリハビリパンツ、ポータブルトイレなどの使用について検討し、利用者の状態に応じ、トイレでの排泄を基本にした支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解し、食事・運動・水分には気をつけている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	△	排泄チェック表に記入しているが、パターンが把握できにくい	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	体調の悪い時以外は、トイレでの排泄を心がけている	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	訴えない方も時間をみてトイレ誘導している	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェックを活用しながら誘導している	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	本人の尿量や間隔などを話し合いながら決めていくが選択肢があまりない	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人ひとりの状態に合わせて昼夜の使い分けなど適宜に行っている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	×	あまり行えていない	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	曜日や時間は希望に添えていない。温度や入浴時間は希望に添えるよう努めている	◎	/	△	湯温や浸かる時間は利用者の要望に沿っているが、入浴日時は事業所の都合になっているので、利用者一人ひとりの要望に沿った支援に努めて欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	個室のためゆっくり入浴していただいている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	できるところは自分で行っていただき、できないところは支援している	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いをせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理には行わず、本人の意思を尊重し入浴を行っている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には、血圧・検温測定を行い健康状態の確認を行い、入浴している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤者が、個々の睡眠状態を記録している	/	/	/	体調に無理のない範囲で、日中の活動を増やし生活リズムを整えるなど工夫することで、薬剤に頼らないよう支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を増やしたり、落ち着ける環境づくりに心かけている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中・夜間の様子を記録し、主治医に伝え相談している	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	居室で休まれる方は、休んでいただけるようにしている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望される方ははがきを書いている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話を希望される方は電話をしている	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	配慮している	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に渡し、居室に貼ったり本人が大切に保管してる	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	本人が話をしたい時には電話をかけることについて理解を得ている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解しているが、入所時に預からないことを説明している	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	必要時には家族へ連絡し職員が代わりに買いにいっている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	近所に店もなく買い物いく機会がない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	小額の現金を待っている方もいるが使う機会がほとんどない	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	欲しい物、必要なものがあれば家族へ相談している	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	金銭管理は家族が行っている。何か購入するものがある場合は家族の同意を得て購入している	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	希望や状態に沿ったサービスを提供できるように努めている	◎	/	◎	親戚の葬儀など急な外出にも対応できるよう支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関周りには、花壇があり季節の花が咲いている	◎	◎	◎	玄関まわりの花壇には季節の花が咲き誇っており、職員がごみ拾いをするなどきれいに整備されている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節感が出るような飾りを飾っている。また、行事に参加した時の写真を貼っている	○	○	○	壁面には季節に応じた飾り付けや行事に参加した楽しい表情の利用者の写真が飾られている。中庭は併設のケアハウスと囲むようにつくられ、落ち着いた雰囲気がある。掃除が行き届き、オゾン空気清浄機を置くなどして環境整備に努めている。窓からは広々と海を見渡すことができ、季節毎の海上の景色を味わうことができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日、掃除や換気を行っている	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に合わせた行事に参加してもらい、居心地よく過ごしていただけるよう工夫している	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	ご自分の好きな場所で過ごしていただいている	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	直接見えないようつくりになっている。2階から見えないように目張りしている	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	全員ではないが使い慣れたものを持ってきている	○	/	/	テレビや時計、化粧道具、手編みのカバーをつけた座布団など使い慣れた物や好みの物が持ち込まれている。仏壇の持ち込みもあり、利用者が落ち着いて過ごすことができるよう部屋づくりがされている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	今、できることを活かしながら自立した生活が送れるようにしている	/	/	/	転倒の恐れのある利用者のベッド横にはソファを置き、もたれかけることができるよう工夫されている。リビングの椅子には手作りの杖置きが設置されたり、利用者が安全に移動できるよう手すりが設けられ、自立した生活が送れるよう配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安や混乱などを招く物品は除いている	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	使用したい時には渡せるようにしている	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	所在確認を行い、自由に歩けるようにしている	◎	◎	◎	職員は鍵をかけることの弊害を理解し、玄関先に移動する利用者には常に付き添うなど安全面に配慮している。玄関は施錠しておらず、自由に出入りすることができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	その都度話し合っている	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	施設内の他の部署にも協力していただいているが、近隣への理解・周知は行っていない	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントや面談記録、薬剤情報などで把握している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日のバイタル測定を記録し、異常の早期発見に努めている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	日中夜間を問わずいつでも協力医療機関に連絡が取れる体制を作っている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	数名、入所前からのかかりつけ医にかかっている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	常に連携を図っている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	その都度話し合いを行っている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	サマリーを作成し渡している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時は定期的に面会に行き情報交換を図っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	往診時や定期的に相談し関係づくりを築いている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	協力医療機関に伝え相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医療機関に24時間連絡が取れる体制を作っている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	いつもと様子が違う時は、小さなことでも相談し受診している				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬剤情報をファイリングし理解に努めている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	職員が管理し、医師の指示通り服薬できるよう支援している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日々の状態を確認し記録している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	状態の経過や変化を細かく記録し家族や医師に伝えている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	重度化した場合、施設のできること・できないことを伝え相談している	/	/	/	法人の方針で、重度になった場合には併設の特別養護老人ホームに移ってもらうことを入居時に説明し、利用者や家族から同意を得ている。緊急時の対応など年間の勉強会に取り入れ、職員は意識向上につなげている。今後は重度化や終末期のあり方について、家族や職員、医師等も含め話し合い、方針を共有することにも努めて欲しい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化になった場合は、家族と相談してその時に必要な情報を伝えている	×		△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	その都度話し合っている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時に説明しているが、その時になってときも説明している	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療機関、家族とその都度相談している	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	その都度話し合っている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	施設内外で研修を行い定期的に学んでいる	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルに沿って対応。実技の研修を受けている。また感染症対応のキットを置き手順を記入している	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	その都度最新情報を取っている	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	随時情報収集している	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は出勤時に手洗い・嗽を行っている。来訪者にも、手指消毒をしてもらっている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	入所者の状態報告だけでなく、日常会話も含めてかかわっている	/	/	/	行事案内の送付や声かけ等を行い、家族は事業所の行事に積極的に参加している。2か月毎に利用者の様子がわかるよう手紙を書き、写真を添えて送付している。遠方の家族など、必要に応じ電話連絡も行っている。原発事故の避難場所として、施設内にシェルターが設置されたことを家族会で報告するなど、事業所の運営上の報告をするよう努めているが、把握できていない家族もいるため、家族全員が理解できるよう分かりやすく説明して欲しい。家族の面会時には職員から声かけを行い、利用者の近況報告をしたり希望や意向を聞くようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	お茶を出したり、行事の様子などお話ししている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事等に連絡し、参加していただけるように案内を送っている	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	2ヶ月毎に近況報告を送っている	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	本人の状況などを報告している	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時、常に声かけを行っている	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事案内を送付している	/	×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族会を行っているが参加者は少ない	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時に説明を行っている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には声かけを行い近況を報告している	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に重要事項説明書と契約書の内容を説明している	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	状態が変化したときには、家族、主治医と相談し退去先に移れるように支援している	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改定時などの変更時は文章を送付し同意を得ている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	運営推進会議や行事で施設への理解を図っている	/	◎	/	住宅地に立地していないため、地域住民と関わりをもつことが難しいが、今後は町内会への入会等も考える方針である。隣接する食品工場に挨拶したことはあるが、その後付き合いが継続していないため、再度積極的な交流を図るなど、地域との連携強化に努めることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	外の散歩時など挨拶を行っている	/	△	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	ほとんどない	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄りたり遊びに来たりしている。	△	行事には来てくださっている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	隣近所がなく日常的な付き合いはない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	夏祭りや敬老会など参加し支援して頂いている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	夏祭りではGHの入所者が出し物をしている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	近隣の高齢者福祉施設と災害時相互応援協定を締結しているほか、消火・避難訓練等を通じて地域の駐在所・消防署との関係を深めている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	家族や民生委員、町の職員さんに参加して頂いている	×	/	△	家族や民生委員、町職員が参加しているが、利用者の参加があまり見られないので、利用者が参加しやすいような工夫に期待したい。外部評価結果の取り組み状況等については、運営推進会議で報告しているが理解していない参加者もいるため、全員の理解が得られるよう説明することが望まれる。運営推進会議で出された意見等は、職員会議等で話し合い、サービス向上に活かせるよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告している	/	/	△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で意見は、職員で話し合っている	/	△	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマにあわせて、日程・時間調整を行っている	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	施設玄関に置き、自由に閲覧できるようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	法人の理念に沿って支援している	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	施設内に掲示している	x	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内外の研修に参加するようにしている	/	/	/	代表者は、相談しやすく希望休など直接言える関係で、年1回ストレスチェックを行ったり、働きやすい職場環境づくりにも努めており、積極的に職員のストレス軽減に努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	施設全体での勉強会計画があり、スキルアップできるように努めている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々の努力や実績等を把握している	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	町内事業所の運営推進会議に参加し、情報交換やネットワークづくりに努めている	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ストレスチェックを実施。職員同士相談しやすい環境づくりに努めている	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	不適切ケアチェックを3ヶ月毎に実施。自身のケアを見つめ直している	/	/	/	3か月毎に不適切ケアチェック表で職員自身のケアを振り返り、勉強会や研修など具体的に学ぶ機会を設けている。不適切なケア等を発見した場合の対応方法や手順等については、マニュアルに基づき対応するよう職員間で共有されている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	その都度相談し対応するようにしている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	見過ごすことのないように努めている。また、発見した場合の対応方法などマニュアルに記載している	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の疲労やストレスによりケアに影響がでていないか注意を払っている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	常に職員間で話し合い、行動を制限しないケアを実施できるよう工夫している	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会を行っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	現在そのような事例がない	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	×	制度は知っているが、違いや利点などの理解はできていない	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	現在行えていない。今後検討していく	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	連絡体制はあるが現在必要な方はいない	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成し周知している	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	実践的な研修は行っていない	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生時は、分析や再発防止策を検討している	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生後、対応策を実施し見直しを行っている	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	施設内のマニュアルを作成している	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があった場合は手順に沿って対応している	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	寄せられた苦情には速やかに対応し納得が得られるようにしている	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	個別に意見や要望をきいているが、言われない方もいる	/	/	○	利用者からは普段の生活の中で意見や要望を聞くよう努め、意思表示が困難な利用者は表情や言動から汲み取るよう努めている。家族には面会時や利用者の様子を報告する際に意見等を聞き取るようにしている。管理者は職員と個別に面談する機会をつくり、意見や要望を聞き把握すると共に、利用者本位の支援ができるよう事業所の運営に活かしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	意見箱の設置。面会時に聞くようにしている	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	苦情受付先を施設内に掲示している	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	個別に話を聞いている	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	個別に悩みや相談を受けるようにしている	/	/	○	

愛媛県グループホーム瀬戸あいじゅ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に一度自己評価を行っている				運営推進会議でサービス評価の取組みについて報告しているが十分とは言えないのが現状である。今後は家族にアンケートを実施するなど工夫しながらモニターしてもらうよう努めて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員同士話し合いをしている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標が達成できるよう取り組んでいる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議にて評価結果や今後の取り組みについて報告している	△	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	行えていないため今後は行っていきたい				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成している				火災や地震想定など消防署立ち合いのもと行っているが、地域住民との合同訓練は行えていない。また施設内にシェルターが設置されたため、逆に地域との支援体制が希薄になりつつある。今後は隣接する地域の民間企業と協力できるような関係づくりにも努めるなど、日頃から災害時の協力体制を構築していくことが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	訓練計画に沿って訓練を行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	非常食は定期的に点検している				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地区の合同訓練に参加しているが、避難場所が施設内になった。	△	△	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	消防署とは訓練時に立会いしている				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	行えていないため今後は行っていきたい				地域の民間企業と関わりをもちながら事業所のPRを行い、地域の相談ニーズの把握に積極的に取り組んで欲しい。町の関係機関とは連携が密に取れているが、行事等具体的な取組みができていないため、地域と合同のイベントを実施するなど、地域の拠点となる事業所を目指して欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	行えていないため今後は行っていきたい		×	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	行えていないため今後は行っていきたい				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	行えていないため今後は行っていきたい				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	連携は密に図れている			△	